

【その九】中国共 党 の本性を する

序

100年に及ぶ共 主 動が、人 にもたらしたものは、戦争、 困、 さと専制というものであり、ソ 及び東欧の共 主 の崩壊によって、20世 末には へと向い、一 市民から党の 書 に るまで、既に共 主 の 構を信じることはなくなった。

「君権 授」でもなく、「民主 挙」でもない共 党政権は、らの 存の りであった信仰が、徹底 に壊 した今日、その政権の合法性も、かつてない挑戦を受けることになった。

中国共 党 中共 は、歴史の に従って、その 台から 場することを拒み、反対に数十年に る政治 動の中で、 の 悪を み上げた数多くの手段を し、合法 なものを探りつつ、 死回 を図るため 気のごとくあがきを り している。

改 にしても、放 にしても、中共の はその 団の利 と 政権の 持を、必死に っているに ぎない。この20年 、中国人民が厳 な束 の下、 労を ねてきた 展により得た果実は、中共に武力を捨ててもらふ、ということをやえることはできず、政権 持のための合法 原 として摘み取られ、その な手法を更に人を惑わす欺 なものにした。

更に恐れるべきことに、中共は全力を傾けて、国民の 德基 を 壊し、全ての中国人を大なり小なり の徒と化し、共 党のために“時と共に む”という 存 境を 保しようと企んでいる。

民族の 治久安のため、一刻も早く共 党支 から 却し、民族の栄光を取り戻すためにも、共 党はなぜ下劣な をするのか、そして共 党の の本 を、明 に することが、より なことである。

一、 の本性は全く変わらない

一 共 党の改 なるものは のためのものなのか

歴史上、中共が危機に する毎に、改善しているように い、人々に中共に対する幻想を させてきた。しかし、一つの例外もなく、これらの幻影は泡沫として えていったのである。今日、 先の利ばかり求めて せびらかす、中共方式の 栄という仮 の下で、人々は共 党に対する幻想を、又も み出してしまっている。とは え、共 党 の利 と国家民族としての利 は、根本で 反するものである以上、この の 栄が持 できないものであることは かであり、「改 」なるものは、中共の 治を守ろうとするだけのものであり、 は変えるが は

変えないというの小手先の改なのである。歪んだ展の後は、巨大な会危機がんでいる。一度この危機が暴すれば、国家と民族は更に巨大な撃を受けることになる。

中央指導の世代交代につれて、世を治められるような器ではなくなり、世代をねるにつれて、威信のいものとなっている。共党は一つの体制として、合法性が危ぶまれる中、団の利を持することが、個人の利を守るための、根本保となってきたのである。このような本性が利己で、しかも全く制を受けないという政党が、もなく帆に展できるということは、一方な思いみにしかぎない。

中共の「人民日報」のについて及する。

2004年7月12日の出し

歴史的な弁法は、中国共党員にこのように教えた。「変るべきものは、変らなければならない、変わらなければえる。変わらざるべきものは、変わることはできず、変わることは己のを意味する」。

では、変わらざるべきものとは、何なのであろうか。

同じ2004年7月12日には、「党の『一つの中心、二つの基本』という基本は、年変らず揺らぐことはない」とある。人々は何が中心で何が基本なのかが分からないが、にでも分かることは、共がその団の利を守り、専制をける決意を決して変えることがないということである。かに共党は世のる所で崩れた。それが共主の末なのである。しかし、亡びくものは必ず必死にその亡にらおうとし、より壊となる。共党に民主改のを持ちむことは、トラに向かってをよこせとむようななともえる。

二 共党がなかったら中国はどうなるのか

共党がへと向かっている時、の憑きのような中共が、めまぐるしく変化する手法により、数十年にっての様々な側に、共党を注ぎんでいることに、人々は気付いたのである。

かつて、少なからぬ人が、毛沢東の像の前でをしては、「毛沢東がいなくなったら中国はどうなるのか」とっていた。20数年後の今日、共党が「政権を掌握する合法性」を失っている時、中共操作下にあるメディアによる新たな宣伝で、人々に「共党がなかったら中国はどうなるのか」という憂いを抱かせたのである。

事実、中共のどこにでも入りむという治によって、文化及び思方法、更には中共を判断する基にまで、く中共の印が押され、い換えるならば中共そのものともえる。去が、中共のえを人々の思想に植え付けることであつたならば、今は正にそのいたを、中共が収

する時期になったのである。その時に植え付けられたものは、既に 化され人々の となり、人々は中共の により事 を え、中共の 場 に って、 事の是 を判断するようになったからである。

天安 の6月4日の 殺について、「 が 小平だったらやはり戦 で 圧しただろう」と った人がある。法 功の 害についても、「 が江沢民だったらやはり徹底 に 害する」と う人もいる。 の についても、「 が共 党だったら同じようにする」と う人もいるのである。

と は既に く、共 党の しか残っていないのである。これこそ、中共の として の最も悪 な手段の中の一つである。人々の の中に、こういった中共の毒 が残っているならば、中共は としての 命を 持するために、そこからエネルギーを吸い取るのである。

「共 党がなければ中国はどうなるのか 」という え方こそ、中共が寝ても めても求めているものであり、人々にはそれに従って 事 を えさせるのである。

中 民族には、中共の支 がはじまる以前、既に五千年の文明の歴史があった。世 のいかなる 会といえども、 朝の 亡によって 展することが止まったという例はない。しかし、数十年の中共の 治によって、人々は判断力を失い、 期に るキャンペーン、党を母と えさせる教 、入り まないところはないという政治によって、中共が ければ ができない、と思いまされているのである。

毛沢東がいなくても中国は倒れてはおらず、共 党が ければ、中国は倒れるのであろうか。

三 動乱の本当の原因は であるのか

多くの人々が、中共の な を察して反感を持ち、共 主 及びその人 しの手法を嫌悪している。しかし、人々は中共の政治 動から引き こされる動乱、中国の内乱を恐れており、中共が一度「動乱」とい って、人々を かすと、中共の強権に対して何もできず、中共の 治を することになるのである。

実 のところ、数100万の武 官や を抱えている中共こそ、中国の動乱の であり、一 民 には動乱の は何も く、動乱を こす も いと える。 に らって動いている中共こそ、国家に動乱を持ち んでいるのである。「安定 定が一切を圧倒する」、「一切の不安定 は、その 態のうちに させる」というのが、中共が人民を弾圧する 根拠になっている。 が中国最大の不安定 なのだろうか。暴政を専ら う中国共 党ではなかろうか。動乱を こす中共が「動乱」を して、人民を かしているものであり、これこそ の やり方である。

二、 展は中共の ぎものとなった

一 人民が 労して培った成果を

中共が する「合法 」というものは、ここ20数年 の 展にある。実 、この の

展は、中共が人民に対する束縛を少し緩めた中で、中国人民がコツコツと一つ一つ作り、積み上げて来たものであり、中共とは何ら変わりのないものである。それにも関わらず、その成果は中共の功勞として宣伝し、人民に対してその恩に感謝するようお願い、中共がなければ、この成功は全てあり得なかったと語っている。にもかかわらず、共産党政権がない多くの国家では、中国よりさらに悪い状態にあるのである。

オリンピックでメダルを取った選手は、党に感謝することが求められ、「スポーツ大国」を実現したことは、党と指導者の明なリーダーシップのおかげとした。中国で「SARS」が流行した時には、「党の基本路線、基本方針、基本政策、基本原則の実践」がウイルスとの戦いに勝利をもたらせた人民日報。「五つ星宇宙」打ち上げ成功の時は、本来は学術の成果であるものを、中共のおかげで、中国人民を世界の大国に列したことの功績であると宣伝した。2008年オリンピック開催は、西洋国が中国の人権状況改善を求めることを、意図していたにもかかわらず、反って人権圧制を「合法化」にし、民衆に対して公明と弾圧実施への口実として利用した。外国が頼んだ「巨大市場の存在力」は、本来13億人民によるものであるにもかかわらず、中共がこれを掌握しているとしては、側近国への資源の材料とし、中共統治の武器として使っているのである。

全ての悪しきことは反動勢力と下心がある者がうとし、全てのいいことは党指導者のおかげで成功できるとしている。何かが完成されれば、それは全て統治の「合法性」を塗り固める材料となる。くなくないことさえ、その悪事を塗り替えて、相手の「合法性」の弱みにしてしまう。例えば、「AIDS」の問題については、厳格な情報封鎖を語っていたが、し切れなくなると、態度を一変する。悪事の張本人であるにもかかわらず、人々の命に対する挑戦であり、患者への虐待であり、「AIDS」への対抗勢力であるとし、有名俳優から党の書記まで出動させては、大々的に宣伝する。多くの人命に代わる間接死についても、相手の弱みの材料としてしかえておらず、このような不健全な手法は、中共とてうにしかできないものである。

二 「後進国」が後進国を劣勢をもたらす

「合法性危機」に陥っている中共は、統治を守り抜くために、改革開放を始めた。功を成し、先々の利を占め、中国を「後進国」に陥れている。

「後進国」あるいは「後進優勢」の概念とは、発展している後進国は、に多くのものを、先進国から模倣していけるということである。模倣には二つの形式がある。一つは制度の模倣であり、もう一つは技術及び工業の模倣である。制度の模倣には困難が伴う。何となれば制度の改革は、既得権に干渉されるため、後進国は技術模倣に傾向にある。技術模倣は、短期に発展が得られるという効果は上がるが、中期発展というからは、多くの問題を内包することになり、中期発展の失敗に陥ることもある。

中共は正に、この「後進国」という失敗の道を歩んでいる。20数年にもなる「技術模倣」で取得したものは、執政の「合法性」を国民に占めるための本質とし、先々の利を占めず政治改革には力を入れ、民族の中期発展を促すものである。

三 中共の 展は悲慘な代償を払う

中共は 国の 展を っているが、世 における 在の中国の地位は、 朝の乾 時代よりも下なのである。 朝の乾 時代の中国国民 ()は、世 の 51%にあたり、孫中山が中 民国を建国した当初の中国 は、世 の 27%であり、中 民国 11年での も 12%に していた。しかし、中共が政 権を取った の中国の は、世 の 5.7%であった。2003年の中国の は、世 の 4%にも していなかった。 国民政府時代における数十年の戦争により、引き こされた 下 とは なり、平和な時代において 下 を引きこしたのである。

中共は、党の 団利 が 上という欠 改 を 持し、政 権執 を合法 にするため、先の功利を求めのに急であり、事実その 展は悲慘な代償を払っている。20年以上に及ぶ の 展は、 の搾取となる 度の と という基 の上にあり、しばしば 境の というものを、その代償として支払っている。中国の に される数字は、その 当な分が、後代の機会を奪うという の上に成り っている。2003年において、中国の世 における は、4%にも していないが、 やセメントなどの は、世 の 1/3に している 新 2004年3月4日報 。

前世 の 80年代から 90年代にかけて、中国国土の 化は毎年 1,000k m²から 2,460k m²であった。1980年中国人一人当たりの 地は、 13.5アールあったが、2003年には 9.6アールに 少し、 な宅地 ブームが、全国の 地 700万ヘクタールを い らしたが、土地利 とされた利 は、43%に ぎないのであった。 時 での排水排出 は 439.5億トンとなり、 境容 の 82%を えている。七大大河 の中で、人 及び家 の 料水として 合しない水は、40.9%を占め、75%を える 沼には 度こと うものの、富 栄 化が っている。中国人 と との 態は、今日ほど 出していることはなかった。こういった 況が めば、中国のみならず世 においても、この の変化に えられなくなるであろう 新 2004年2月29日報 。

代 建 や 代 に れている人々は、 づきつつある 態 の危機に、全く気付かずにいるかもしれない。しかし、一旦大 が人 に対して をむいたならば、中 民族が受けうる打撃は、想像もつかないものになるであろう。

一方、共 主 を放棄したロシアは対比 にある。 改 と政治改 が同時 しており、急 に 展への を歩みは始めている。1999年から2003年までに、ロシアの は 29.9%に成 しており、 水 の向上も である。 側ビジネスも、「ロシア 」を りはじめ、本投入も んである。ロシアの国家としての外国 本受入 位は、2002年には 17位であったものが、2003年には 8位となり、投 受入リストのトップ 10入りを果したのである。

ほとんどの中国人が、 困な国の印 を持つインドに っても、1991年の 改 以来、 展の加 が であり、毎年の 成 は 7~8%に している。インドは市場 法律体 が完備されており、 システムも健全であり、民主制度も比 / に成 しており、国民性は やか

であるため、国会から巨大な在力を持つ国であるとめられている。

それに反して、中共は正に期な成というの下に、ひたすら改をい、政治改をおうとはせず、「制度化」というの択を妨げている。このような半可な改は、正に中国会の形化を加し、会を先化させ、人々が成しげた展よる制度化された保は、何もないのである。中共の権層が、国家を有化してくで、権勢を借りて、をやすことのみ働いているのである。

四 中共の民に対する欺

中共の政権は、農民がもたらしたものであり、古い放区の人民は、中共に全てを捧げた。それにもわらず、中共は権力を掌握した後、農民を差別したのである。

中共が政権を樹して制定した、極めて不公平な制度が戸制である。「業従事と業従事」を強制区分し、国内に分と対、差別をもたらした。農民には医保もなく、失業保もなく、廃棄保もなく制度もない。農民は、国内で最もしい態にあるにもわらず、最もいがせられているのである。農民には、公、公、教加、民兵建、村建、及び別慰問戦没の家族、人家族に与えられるなどがせらせる。この外にも公、業、土地、屠宰などを支払わせられるのである。しかも、各の割り当て名は、枚挙にいとまがない。しかも、こういったは、「業人口」にはされない。

2004年、家宝は「一号文件」を布した。その内容は中国の農民、業、村は改放以来、最も厳しい時期にあり、多くの業従事の収入は、低、少し、にり、市住民との収入格差は、拡大をけているというものである。

四川東の伐採場で、上政府は50万円の予を付与した。これに対して、伐採場の任は20万円を服し、30万円の予とした。これが各でわれ、実に作業をう業従事にされる分は、ほとんど残っていなかったとう。政府は、業従事に手されるが不し、植樹がされないということなど、気にもしていない。いかに安かろうと、困している業従事はやるにいない、というなのである。「中国」の品が安いのも、同じなのである。

五 利で側をかす

多くの人は、易の展が、中国の人権、の、民主改を促できるとえていた。しかし、十数年がした今日、これはただの希望でしかなかったことが明された。最も典型的な姿はビジネスの世にある。側国の公平明が、中国ではコネクションに変わり、収、汚敗となる。多くの側の大企業が、中国の敗展を動する急先となり、更には中国の人権弾圧、人民待をする母体となっている。

カードによる手口は、中国の たる外交上での れである。例えば、 機の商 を フランスにするのか 国にするのかは、どちらが中国の人権問 について、 及するかしないか によって、決めるのである。 権 が、 側のビジネスマンや政治家をしっかりと り付け たのである。北 の一 のウェブ 企業が、インターネット上での情報封 専 商品を中共に 提供しており、一部のインターネット 企業は、中国へビジネス展 をするために、中共にと って好ましくないものを、全てのウェブサイトから、「主 に」フィルターするという事まで しているのである。

中国商務 の によれば、2004年4月の中国における外 は、 で9,901 3億 ドルと なっている。外 は中国 にとっても、大きな 作 をもっていることは明らかである。 しかし、その の において、外 は民主、 、基本 人権といった原則を中国人民にも たらすことはなかった。外国 本と外国政府の「条件」の協力及び一 の国による媚びは、中 共が宣伝 に使 できる 治 本となった。 の な 栄の 板の下で、役人と商人が し、国家 を掠め取り、政治改 の実 にこれ以上ない妨げとなっている。

三、中共の は、「々」から「化」へ

しばしば かれる として、「中共は、以前よく嘘をついていたことを っているが、今度の は嘘ではない」というのがある。 とも えるのは、時の れを ってみても、歴史 に て、中共が何か大きな りを かけた時、人々はいつも同じことを っていた。これこそ数十年 に って き上げて来た、人民を す の力である。

大 呂敷を広げたような に対しては、いささかの抵抗があるため、中共の人を す嘘も、 「化」し、「专业化」してきている。 去のスローガンから、「少しずつ前 させる」、「 化し、微に入り に る」となってきている。 に、情報封 をした 況において、「事実」の断 を切り取った で、民 を った方向へと 導する。その害は、より人を惑わすものとなっ ている。

国の 「China Scope」の2004年10月号に掲 された 事には、いかなる方法により、中 共がその嘘をつく手段を、「化」させていったか、についての事例が 介され、 をどのよ うにして したか、という分析が されている。2003年大 でSARSが した 、その実情を しているのではないかと われたが、中共はそれを再三否定した。中共のSARS報 が、客 なものでも有るや否やを するため、 は新 ネット上で4月から始まった400以上に及ぶ SARS 報 を んだ。

これらの報 から 受けられたことは、SARSが出 した 、中央から地方までの専 家が ちに 会い、 察し、治 し、 人は回復し したということ。一 の からぬ が 波を て るため、政府は を 断し、人民の の 序と安定を保 しているということ。外国にいる 少数の反 勢力が、根拠も しに中国政府が、 していることを っているが、そのことを大

多数の国々と国民は信じていないということ。広州交 会は、歴史上最大の 模で 催されようとしており、 外からの 光客が、中国の国内 光は安全であると したこと。 に 欺かれた WHO の専 家も、中共は協力 であり、措 は を射ており、何の間 もないと ったこと 察は 20 数日 も らされていた 。WHO 専 家はその後、広東 への公 察も されたということ。

これら 400 以上に及ぶ報 から、4 ヶ月の 、中共は全てを 明にしており、人民の健康には 対 な 任を い、情報を すなどということは えられない、と感じさせられたものである。しかし、4 月 20 日に到って、国務 は 会 を い、中国で SARS が全 に したとし、実情を していたことを めたのである。これにより、中共の 欺 の手段が、明 に み取れる。

台 の大 拳に しても、「手 を みつつ」、「ゆっくり 導」するという方式で、人民を巧みに せし、大 拳のキャンペーンにより 殺 数が上昇し、株価が下 し、「怪 」が増え、 常 が し、島民は 外へと 住し、家人は反 し合い、 は張りを失い、市場は ち み、 では が乱射され、 争抗 が こり、 府を包圍しては、天下大乱となり、政治は機 していない…毎日大 の民 に、こういった情報を しては、人民に「これは全て 拳のせいである」、「 たちは民主 拳など 対に採 しない」と思い ませるのである。

法 功問 に しては、更に悪 な手段を じている。いかにも 実であるかのように い、その手口は一段とエスカレートしていった。全ての 出は に り、一つ一つ 心 く小出しにして くことで、人々は信じざるを得なくなったのである。 しによる の手法は、 そうとする人々の感情を巧みに操り、 を 実であると信じ ませるのである。その上、 された人々は、 分たちが に じている、とまで勘 いしてしまうのである。

この数十年 、 せしで人を す手口は、より「 」で「微に入り に る」ものとなり、その の本 を増 させているのである。

四、中共の人権偽

一 権力を奪い取るため民主を求めことから、 治と人権偽 へ

「一つの民主国家にとって、主権在民は普 の原 である。民主国家を する国で主権が、人民の手中になればそれは偽りであり、 常であり、民主国家ではないのである。党支 を止めず、人民による普 拳も わずして、何が民主と えるのか 人民の権利は人民に さねばならない 」

これは 外の敵対勢力が、中共を打倒するための檄文であるに ないと思われたならば、それは りである。この宣 は、1945 年 9 月 27 日付の中国共 党機 「新 日報」に、掲 されたのである。

大声で「普」を唱え、「人民の権利を人民に与えよ」と求めた中共は、政権を掠め取った後「普」を句としてしまった。「人民が主人公となって政治に参加する」のはずの人民は、全く権利を得られなかった。このような手口は、「氓」の二字でもってしても、中共のをるにりない。

これをぎたことであるとし、殺人によって政権を作り上げ、で国を治める教中共も、今では改善され、「人民の権利を人民に与える」備があるとなすことは、大きなりである。60年した今日、中共の機「人民日報」は、何を唱えているかを傾けよう。

「意 形態工作の主導権を掌握することは、党執政を強化するための思想基と政治基の根本である」 2004年11月23日 九 所

中共が最 唱え出した新「三不主」では、っ先に来ているのが「争せずの下 展させる」である。「展」は偽りであり、人に有をわせず、己のうことを上命令とする手法を、強する下での「争せず」が、中共の本当のである。

江沢民はかつて、CBSの名レポーター、マイク・ウォレスのインタビューを受け、「中国は、なぜ在にても普拳がないのか」とねられた。その時のえが、「中国人のがあまりにもくないから」というものであった。

しかし、1939年2月25日の「新 日報」には、共 党のとして、「国民党は、中国での民主政治の実を今日のこととせず、何年か後のことだとしている。彼らの希望は中国人民のや教水が、欧 国家なみになれば、民主政治を実するとしている…ところが、民主制度の下にあるからこそ、民の教は正に容易にえるのだ」とっている。これこそ中共のを正にしている。

六四 天安 事件 後の中共にとって、人権問が世の台で する上でのかせとなった。歴史が中共に 択の機会を与えたのだ。一の 択は、人民を尊し 正に人権を改善することを学ぶことであり、二の 択は、引きき人権を侵し、対外には人権を尊しているように偽り、をれることである。

不幸なことに、の本性を持つ中共は、することなく、二の 択をんだ。学、宗教を含めた各域で、欺にちた宣伝をい、人権が歩していると吹する大の偽人員をい、「存権」なるものを持ちんでは、人権をはぐらかせで有ればす権利がいといるのであろうか 例えそうであろうと、の人は、の人のために、何かをうこともできないとうのであろうか、人権ゲームを弄び、中国人民と側民主国家を欺き、「今が中国の人権にとって最もよい時期である」と吹したのである。

中共憲法三十五条には、中 人民共和国公民は、出、会、デモのがあると定められている。これは全くのところ中共の文字びである。千万万の法 功学

は、信仰、出、会の権利を奪われているのである。彼には弁を受けられる権利もなく、情することすら法となされるのである。2004年以降、一の情団が、北京でのデモの可を数回したが、政府は同意しなかっただけでなく、人を拘した。中共憲法で定めたの「一国両制」も、中共の治が、国政府と人民をすためにけたものにきない。何が50年不変なものだろうか。5年もたない内に23条の悪法をさせようとし、両制を一制に変えようとしたのである。

「をめる」というをしては、をしていないようにせかけるの、中共の新たなる。中国人は時で何かをること、よりになったと思っており、インターネットの情報の伝も、より早くなったと感じている。そこで、中共は、はであると、多の民それを信じる。それは仮り、仁慈に変わったのではなく、会も展し、技も歩したため、止なくなったのである。中共のインターネット上でやっていることをみり、ネット封フィルタリング、コントロール、をせるなど、完全に世のれとしている。今日は、一の人権にする本家らの協力の下に、中共の察はパトカーの中で、インターネット上の人々の動をる備を備えている。世の民主という大の下でっていることから、公にスパイという悪事を働いており、人権況の改善などり得ることだろうか。らべているり、「外はくせ、内はめる」のである。の本は全く改めていないのである。

国人権会における子のめ、2004年中共は、人権侵を取りる動だったが、これは全て外国人にせるためのの実な内容は全くない。というの、中国にあって最大の人権害分子は、共党そののり、中乗前書江沢民、元政法委書干、公安周永康及び副劉京などが中核だからである。彼に人権侵を取りれというの、正に泥棒が他人を泥棒呼ばわりして、分へ及をれるために、人のをそらそうとしているにきないのである。

これは例えてみれば、強姦常が以前は人がていないところで、毎日10人の少女を凌していたが、後になって人が多くなり、一日一人しか凌なくなったということあり、この人は好くなって来たと言えるものだろうか。以前は人のていないところで少女を強姦したが、在は大の前に少女を強姦するというのれば、このが、より下劣で廉恥になったとうことり、強姦常の本性何ら変化なく、以前ほど勝手にになくなった、ということあるにしかきない。

中共は正にそういったの強姦る。中共の本、権力を失うことを恐れるという本り、人民の権利を尊することどあり得ない。人権尊を出するために、人力、力を投しているものが、に人権改善のめに付与した努力をか上に上回っている。共というが中嗜しており、これこそ中国人民の最大の不幸である。

二 「法律」を手段に「文明のをて」のように振るう

中共は権団の利を持するために、一方で偽を取り外し、徹底に工民を捨てている。また一方では、国会で増えつつある中共の人権侵害を暴するスキャンダルをいすために、欺と的手段も多様化し、「法治」、「市場」、「人民のため」、「改」などのをいては、人々を惑わすのである。文明のをしている中共悪の本性は変わっていないばかりか、人民服をていた以前の中共に比べ、より悪で欺と惑乱にちるようになった。例えば、『動場』で描かれたように、は両で歩くことをい、やがて両で歩くことができたが、体をっすぐにして歩くは、新しいイメージであっても、という「本性」は全く変わっていないのである。

一 法に反する各法律法及び条例を制定する

これらのものは、「法律根拠」として、国の各法律執担当へ伝され、「反害、を求め、人権を」のために努力する人民に対しての弾圧に利される。

「政治」な問に対して「政治」手段をいて決する

一 な会問を「党とを巡って奪い合う」、「党をぼし、国をぼす」、「動乱」、「敵対勢力」などの大問までエスカレートさせ、「政治」な問を意図に「政治」な問とし、政治動の宣伝方式をいて、民の憤りをりてるのである。

☞ 「政治」な問を「政治」手段で決する

一の民主動家や人に対して、中共が取っている最新手法は、を仕掛け、「売春婦をう」、「」などの民事刑事名により、彼らを刑務所へとれることである。この手法をいれば、人のをませることができる上、世のかられられ、更に彼らを大の前で恥をかかせることができる。

中共の本性が、あえて変わったとるのであれば、更に恥らずとなり、ますます人性を失ってしまったことに尽きるのである。

三 十数億の人民を拉する「人文化」

例えば、強がドアをうちって押し入り、強姦をもした。法廷における弁では、その「強姦」のおかげで、人を殺さずにんだのであり、「強姦」と「殺人」を比べれば、殺人の方が凶悪である。従って、法廷は告を放とすべきだとべ、人々が強姦は正しいのであると唱和すべきとする。

これは全くの唐であるが、中共の六四天安事件殺のは、この強と同じなのである。彼のは、「学を殺」することによって「内乱」をいだ。「内乱」と比べれば「殺有」となるということである。

強が法廷で、判官に「強姦と殺人ではどちらがましか」と問う。何を意味するかとえば、この強姦は廉恥なだとうことである。同様に「六四」の問において、中共とその同は、殺人がであるか否かという問を検したのではなく、会に対して「殺と内戦

ではどちらを「ぶか」と尋ねたのである。

中共は、国の全ての機構と宣伝媒体をコントロールしている。調べてみれば、13億の人民は全て中共の人である。この13億の人を手にして、中共の「人」は常に、一人の人を弾圧しなければ内乱になるかもしれない。そうすれば国家にるとっている。このような口実により、に対して弾圧し、を殺しても構わないとし、いつまでも「殺は正しい」のである。このように民意をみにじっているである中共を、上回る存在はあるのだろうか。

四 とを与える、「」を恩 されてから、より くなった弾圧まで

人々は 在、昔に比べると「」が多くなったと感じている。そこから中共が将来 くなって くだらうという希望をもっている。しかしながら、人民に授けた の度合いは、中共が感じている危機感と大いに 係がある。党の 団としての利 に、有利に働くことであれば何でもやる、というだけのことであって、いわゆる民主、 、人権に るものも、必 があれば与えるのである。

ただし、共 党の 治下で与えられた「」には、何の法 的な保 はない。この「」なるものは、国 大 の中で、人民を させ思うままに操るための 具なのである。本来、中共の利 と合 するわけもなく、 するしかないものである。一旦この が、容 の度を えたならば、一切の「」を奪い去るのである。中共は、その歴史の中で、何度か 対 なの を 出し、その後は厳 なる取 をする、ということをし しており、そこに の本性が されている。

在、インターネット時代となり、新 ネットや人民ネットを むならば、そこには多くのマイナス情報が存在する。 一に、悪しきニュースは多く、しかも早く伝わる。その分 での 争から報 しない にはいかない。 二に、こういった報 の基本は、党の利 に 合するという ことであり、「小さなものを り、大きなことを助ける」という手口で、悪いことの原因は、全て個人であり、党とは わりも く、しかもその「問 決の方法」では、必ず「党の指導でなければ 決できない」となっている。何を報じ、何を報じないか、報じるとすればどの 度か、報 は大 の媒体から出すのか、 外の共同媒体に報 してもらうのか、いかにして悪しきニュースを「昇 」させ、民心掌握するなどについての按排には、 常に しているのである。

多くの大 の は、中共の はかなり だと思い んでいる。そこから中共に対して恩 愛を え、希望を抱き、最 にこの手の「 なる」 の媒体戦 の となってしまうのである。更に、 会の局 を 乱させるため、 当なマイナスの報 と み合わせることによって、人民に対して、中共の強権がなければ、時局を収められない、と人々を かし、中共に 成する 以外の を ってしまうのである。

中共が人権を改善するという善意を すことがあったとしても、体 が変わったなどと思わないほうが い。かつて、国民党との争いの中では、民主 士を っていた。 の本性が、一切

の承は当てにならない、ということの意味する。

五、中共の動向としての動

一 国を売り、栄を求め、一を擁するというのはであり、本は国土を売りに出す

「台を放しなればならぬ」、「台一」というのは、中共が数十年にわたっていっているスローガンであり、民主主義と愛国主義の守りであるように振っている。中共の本当の心事は、国家の土の保全にあるのか、たとえばそうではない。台は国民党と共産党の争いがもたらした、歴史的問題として残っているだけのことであり、中共は手を叩く口実として使い、人心のみに使っているに過ぎない。

中共が国民政府の下で成した「中ソポリシェビキ」での「憲法」第十四条では、「中国内の各少数民族、更に各民族は、自治することができる」とある。ロシアに呼応して中共も、「ポリシェビキ〔レーニンのいるロシア社会民主党ポリシェビキ（後のソ共産党）〕を守る」ことをスローガンにした。抗日戦争中、中共の最大の利は、それを利して領土の模を拡大することであった。1945年ソビエト共産党が東北に入し、強姦や奪を働いた時にも、更にはソビエト共産党が、外貨をさせた時にも、何ら抗議をしなかった。

1999年、中共とロシアは「中-ロシア国境調査協定」を結んだ。それによって、ロシアがロシアとの間でんだ一の不平等条約を承し、台の数十倍にも相当する100万km²あまりの国土を売り出した。2004年の「中-ロシア東国境調査協定」によって、長江子島の半分の主権を失った。

その他の境界分割について言えば、南沙群島さらには釣魚島の主権に関しては中共の政権維持に何の利もないのでどうでもよいのだ。「台一」は、中共が内政をさせ、民族主義を振り回すの口実である幕を張っているに過ぎない。

二 徳抑制のない政治上の

政府はすべからく徳の下に置かれるべきである。民主国家にあつては、その分権政治制度と、報徳の徳によって、法律制が働き、宗教信仰は更に徳上における己との徳を提供する。

共産党は徳を標榜し、徳の徳である徳はなく、ひたすら権専制を求め、政治上、法律上の拘束もない。それ故、中共に対しては、天も法も妨げるものはない。ならば、中共は人民に代わって徳をするというのか。「我」なのである。これこそ中共が数十年にわたって、人民を欺いてきた口実である。早い時期には「我批」を述べ、後になって「我」が徳し、「我」が党の徳を正し、最終的には「我」が、党の執政力を向上させると述べ、中共が強いているものは、共産党が「我改善」の強大な徳をもっているということである。更に、動向としても「中央法律検査委員会」、「信」情報受付所なる人々を感せず

り な機構をも した。

徳と法律の拘束のない「我改善」は、伝 ない方に従えば「心 」らの心に
を ずる である。これは中共が外 からの 、党、報 の 放を拒 するための口実であり、
政治 が、その 団の利 と執政の「合法性」を守り、人民を欺くためのものにしか ぎな
い。

政治 としての手 が中共の である。「人民民主 専政」、「民主 中制」、「政治協商」
などの で、人を し、「専政」以外にこれらスローガンには何ら実態はない。

三 抗日戦争からはじまり、反テロ 争に到る 構の上に、 を図る

中共の教 書と党史には、明 に「中国共 党は全国民を指導して日本人を打ち った」と
されている。しかし、多くの歴史 料によれば、中共は抗日戦争には意 に参加せず、国
民党を戦わせては力を え、後ろから を引っ張り、抗日戦争の をしていたことは明らかで
ある。

中共が参加した大型会戦は、「平型 戦役」と「 団大戦」があるだけである。「平型 戦役」
について えば、「戦 の指揮と戦 に参加する指導 と主力」ではなく、敵 の へのゲ
リラ攻撃を ったに ぎなかった。「 団大戦」については、中共の内 では、党中央の戦 方
に いて われたものとしか思われていない。その後、毛沢東及びその他の中共は、そういった
戦 らしい戦 に加わったことはなかった。 存 、 光といった抗日の を作り出すこと
もなかった。ただ数人の 官が抗日戦で殉死しただけであり、今日に到るまで、その死傷
数を明らかにすることすら出来ず、しかも中国大 において、抗日 士 抗日戦で戦死した兵士
の 念 を ることも、極めて である。

当時の中共は抗日戦のはるか後方でいわゆる「 寧 区政府」を樹 し、代 に えば「一
国兩制」であり、国の中の国「兩個中国」 二つの中国 を作ったのである。戦 員の中には抗日
の 情に えていたものもあったが、中共の 層には抗日の意志はなく、 を持って兵員を
存しつつ、戦争を己の力を え、己の利として利 したのだ。中日国交正常化に当って、毛沢東
は時の 中 栄に心境を吐 した、「中共は日本に感 しなければならない。あの戦争がなけ
れば、中共が天下を取ることは出来なかった」。

これは中共が する「全国人民を いて八年 の抗戦中指導を け、最後の勝利に導いた」
という大嘘の である。

半世 後、 国に911テロが こり、反テロが世 の となった。又しても中共は抗日戦で
使った を使った。反テロを口実として、多くの宗教信仰、 人士、地域、民族
争などの団体を、テロ分子とし、国 な反テロ機 を れ に暴 な弾圧を った。

2004年9月27日の新華北の「新京報」によれば、北京に全国各地の市中で、最初の反テロ作戦を実施する可能性があるという。外資系メディアは、更に「610弁公室が反テロに加入」610は法功害専のことで、大げさに報じ、法功を含むテロを攻撃することに意をくわした。

中共は、心に寸もなく、殴られても殴りさず、辱かれても逆すことのない平和感情にやる民をテロ分子とし、完全武装した「反テロ」を出動させ、力なき民と善良な人々を叩き出すのである。更に「反テロ」という口実で、外からの批判と非難を浴びせるといって、抗日時に使った手法と全く同じであり、国会でやっている「反テロ」運動に恥を与えている。

四 影では敬意を切ると言う手口で世を弄る

「自分は信じないが、やり他人を信じさせる」というものこそ、中共という教が、最も狡猾な手口の一つである。中共が共産党の教は全てでたらめであり、教主は欺であり、既に知っておることを知っており、信じないにもかかわらず、信じることを強し、信じないものは弾圧するということをやっている。党がこれら欺を憲法に取り入れ、国の恥としたことが、最も唐突な廉恥である。

実のところ、あるいふ点があり、中国の官における政治争いの中で、敗者が原因で失った官らは、昼は大会で「廉奉公」を唱え、夜になれば「楽のし放」という有様であった。元、南李嘉廷、州委書劉方仁、河北委書、国土大山、安徽副懐忠のいわゆる「人民公僕」らは、同じことをしている。彼らは、一人として汚をしていないものはないが、その「」や各の報告の中では、りし「廉に政治をい、敗への反を強化しなければならない」と求めているのである。

中共は理想を抱き、前有望な人々の入党を大きく宣伝し、党の外をにしている。しかし、今日の中国の徳墮は、たとえようのないものであることは、の一するところである。なぜ中共の宣伝する「文化」は機しないのであろうか。

共産党のが民を指導する時に、「共主徳」、「人民服務 人民に奉仕する」などは、ほとんど欺同である。マルクスは児問、レーニンは春により梅毒感染、スターリンは歌手をやりに困り告、毛沢東の女り、江沢民の、ルーマニアのシャウシェスク一家は権を享受、キューバのカストロは外のに数億の、北朝の日成の子孫はの日々など、共産党リーダーの不一は、元マルクスから始まっている。

中国人民は日常の中で、嘘で固められたしい政治学に厭気が差している。人々は「政治」というものは、人をすためのものでしかないことを知っている。政治台の上にいる人も、台の下にいる人も、お互いのやっていることが分かっているにもかかわらず、く求せず、暴くこともしないのである。こののをして人々は、「場一懸命てみぬ振

りをする」とっている。少し前まで「三個代」、その後の「執政力向上」、最後では「人々の心を暖かく、人々の心をやかに、人々の心を得る」など、全ては下らないである。

「どこの執政政党も人民の利益を代していないのだろうか どこの執政政党が執政力を失うのだろうか どこの執政政党も人心を得るために働いていないのだろうか そうでなければ、早々に政治舞台からい とされるのではなからうか」。しかし、中共はこういった を奥い 妙な であるものとして、何年にもって学 させるのである。

って「 て ぬ振りをする」ことが、13億の人民の 慣となり、党の文化 となってしまう時、 会全体に「偽り、大 ぼらを吹く、 中 がない」という がこり、信 危機が じた。なぜこのような方法を 択するのだろうか。昔は「主」、今は「利」の である。「 てみぬ振り」を けていかなければいけない。このような方法をとらなければ、 らしいボス像がなくなり、人民に推戴されなくなり、人民が 分に対して、恐れることがなくなるからである。

五 人を殺し個人の正 感を党の利 に服従させる

劉少奇が「 共 党員 修 」という本の中で、次のように べている。「党員個人の利 は、 条件に党の利 に服従させる」と うものである。歴史 に ても、中共の党員の中で、国を憂い、民を憂える正 の士で、人民の になることを おうとする廉 な官僚は、欠けることはなかった。しかし、中共という利 求 団の中では、こういった官僚は出世することはなかった。「人性は党性に服従する」という圧力の下で、仕事を けることが出来なくなるか、または 汰されるか、あるいは同じ の むじな になってしまうのである。

人民には中共の さが にしみている。そして、中共 の「強権」を恐れている。それ故、人々は正 を擁 せず、公 を信じようともせず、最初は「強権」に服従し、その内 感 となり沈 し、我 せずという姿勢を く。思 も に「強権」に従うようになってしまっている。これこそ中共暗 会 の本性を すものである。

六 教「愛国主 」は人民を 急 動員するための命令である

中共は「愛国主 」、「民族主 」といったスローガンを、人々を すための い として使っている。「愛国主 」、「民族主 」は共 党の大きい旗 板 であるだけでなく、何回 しても、同じ い 果をもたらすスローガンである。数十年に り国に戻ってこない 僑は、「人民日報」 外 によって、民族主 宣伝を数年 み けたならば、国内の人よりも愛国の念が強くなる。共 党のいかなる政 に対して、「ノー」と えない中国人であるにも わらず、党の の下、「愛国主 」の御旗を掲げ、ためらい く中国にある 国大使 や 事 に、卵や を投げ、 に をつけ、星条旗を やすようなことを公 とする。

共 党はこのことを 定め、全て中国人を服従させる大事に当っては、「愛国主 」、「民族主 」

方式で民を急動員する。台、法功、機事件などについては、恐喝と団で全国人民を一の戦態に引きずり込む。これはかつてのドイツにおけるファシストの手段とよく似ている。

情報封鎖をしていることで、党の成功はに成功している。中国人全てが中共歓迎ではないとしても、をえるのに当って、中共にされた思方式で事をえるのである。例えば、イラク戦争について、少なからぬ人は、中国中央テレビ局の日の報によるで、心がかき乱され、憎悪、復と戦いたいという強い感をえながら、戦争をっていた。

七 厚 恥にも国家を党の下におき、人民にをと呼ばせる

中共が人民に対する告として常しているは、「党が亡ぶ、国が亡ぶ」である。党が国の前に来るのだ。国方は「共党がなければ新中国はない」である。人民が子供の時から叩きまられることは、「党のうことをく」、「党の好い子になる」である。歌わせられるものは、「は党を母とえる」、「党はの愛する母」、「党の恩はよりい」、「も母も共党には及ばない」である。動指は、「党の指し向かうところそれに従う」であり、政府が救動をった時は、「党と政府に感する」であり、「党」への感が「政府」への感に優先する。のスローガンは、「党がを指揮する」である。判官の服を専家がデザインした時も、につける四個のボタンは、上からに党、人民、法律、国家の徴とする。判官にとっても、永に党が「法律」、「国家」及び「人民」の上にある。

「党」は中国にあっては上の存在であり、「国家」は「党」の付属なのである。「国家」は「党」のために存在し、「党」は人民の化であり、「国家」の徴である。党を愛し、党指導を愛し、国を愛することが、ごちゃぜになっている。これこそ中国の愛国主が捻じ曲げられた根本原因である。

期にわたる宣伝と影で、多くの党员及び党员以外の人が、党と国家の位付けをり、「党の利」が一切のものに優先するとえている。あるいは、「党の利は人民の利、国家の利である」をする。それは中共の団に、「国家利」を売る大きなを与えたのである。

八 名 回復というトリックでを「偉業」に変えてしまう。

歴史上、中共は多くのりをしている。しかし、その度名回復とっては、個人や団体にそのりを押し付け、恩に感じ徳をえることを強し、中共の悪をに帰すのである。「りをすことを得意としているだけでなく、らそのりを正すだけの勇氣も持っている」というのが、死からき抜くための妙であり、これによって、中共は永に「偉大光栄正」な党となるというである。

いつか中共が、「六四」天安事件、「法功」に名回復をうことがあるかもしれない。

しかし、それは きったことによるもので、時 かせぎの の手口であり、 ら反 し、
らが した を する勇氣などはない。

六. の本性の大暴 “ ・善・忍”を国家テロとして抹殺

中共 教 団がやった「天安 殺という捏 」は、中共による世 の戯 である。法 功を叩くために五人を し、法 功学 を じさせては、天安 で 殺を偽 させた。一人はその場で口封じのため殴り殺された。事後に口止めされた人もいる。中央テレビ局で放映されたスローモーションの映像で と、劉春 は 官になぐり殺されていることが て取れる。その映像から られる 東の座り方、 後両 の に られたプラスチックボトル、医 と 劉思影の会 、カメラマンの 場での などに、多くの があり、この 殺事件は、江 沢民 の 団が、法 功を れるためにでっち上げた、やらせであったことがはっきりと分る。

一つの政党が最も卑劣で残忍な手口により、改 放以来 えてきた 20 数年来の国力を傾けて、 党、政、 、 察、スパイ、外交及び各 各様の政府及び民 を動員し、全世 を うメデ ィアシステムを操 し、 から 学技 を動員し、情報封 を い、 を修める平和 団体 に対し、 情な弾圧を わせ 害を加えている。これこそ中共 の本性を徹底 に曝け出した ものである。

歴史上、いかなるならず 、 といえども、江沢民と中共のやっているような徹底した戯 は、例を ない。一人一人の心の中にある各 の 念に応じて、それに している戯 を 意 し、あらゆる人に対して、そのデマを信じ ませ、法 功はその人 にとっての仇であると思わ せているのである。

「 方は 学を信じるのか では法 功は 信である。あなたは政治に反感を持つのか 法 功は政治に介入しているのである。あなたは 人が を儲け 外へ ったことに反感があるのか 法 功は めをしているのである。 に反感を感じるのか 法 功は厳密な をもっているのである。何十年も いている個人崇拜に嫌気がさしていないのか 彼 は思想制御をしているのであり、愛国心は いのか 法 功は反中国なのである。 会の安定を望んでいるのか 法 功は 会の安定を 壊しているのである」といった具合に。法 功が“ ・善・忍”を く と えば、中共は、「法 功は不 、不善、不忍を き、善の心から殺意の心を み出している」と うのである。

政府はもうこれ以上嘘を わないであろうか。決してその様なことはなく、 殺事件から 殺、 を殺すから他人を殺害する、一人を殺すから多数の人を殺害するに るまで、人々が信じざるを得なくなるまで、更に拡大し撒き散らすのである。もし、法 功に同情しているならば、その成 を法 功問 と 付け、法 功学 が北京へ 情に出かければ、失 させ、失業させ、ボーナスなどを没収し、法 功と敵対させる。更に数多くの法 功学 は、 けに られ、捻じ曲げられた 屈、家族の愛情、就 、就学で圧力をかけ、家族や同僚に対して 座で し、その上拷問や 刑を加え、必ず 功しないという保 を書かせるのであり、正しい信念を放

棄させるのである。そして、向した人により、他の人も向するように仕向けるのである。中共は、人をへと変化させ、人に悪のをらせ、底の底までれるのである。

七、「中国」というの会主

「中国」というのは、中共のましである。共党が一に唱えかけて来たのは、中国命が成功したのは、「マルクス・レーニン主と中国命の実の具体合」だとしている。「殊性」をするのが、中共の一した手口であり、それが不変極まりない、の政作りのルールとなっている。

一反常、天世のをませ、密かに悪事を働く
こういったな「中国」という板の下で、中共が成したものをると、唐であり、止千万であるとしかえない。

共党命のは、の公有制であって、多くの共主の想を求める年をし入党させた。その中の少なからぬ人々は、家であり家庭をかぜられたのである。83年がした今日、が再び戻って来た。それも当初「大同」の旗印の下にあった共党の変なのである。当今、中国共党指導の子女や新属には、巨万の富を持つ新本家は、枚挙にいとまのないほどである。共党員は、少なからずこの列に加わるべく必死になっている。共党は命の名の下に、地主と本家をし、彼らの有を掠奪した。在、党の上層には敗汚が延し、昔の本家に/べても、さらにのある官僚本成りとなったのである。党に付き従って、天下を取ろうとした人にわせれば、「先にこれをしていれば、そんなことはしなかった」とうことになる。数十年の奮の挙げ句、今になってれば、分の兄のと己の一を、共党という教に捧げてしまっただけなのである。

共党は基が、上層建を決定するとしているが、実には党内の官汚吏による官僚基が、上層圧建を決定しており、それ故に人民弾圧が党の政となっている。

中共のもう一つの性は、人文化のあらゆる概念の意をすり替え、変させた概念をもって、その人民を批判し、専政することである。党について言えば、人会において、党するということは古くから、普にられることである。しかし、共党だけは、党団の利というを完全にび出してしまっている。党に加入したならば、党が個人の性格、にるまで一切をコントロールすることになる。党に権利をしたならば、党は会、政府、国家機は一切をコントロールする。大は、かが国家主席になり、国大になり、法令の制定から、小はがどこに住んでいか、と婚するか、子供は何人むかに到るまでコントロールし、しかもこれらの制御方法を果てしなく拡張させている。

中共は弁法という名の下、哲学な円思形式や思力及び探を、徹底に壊した。共党は「労働に応じて分」、「一の人から先にかになってくことをめる」ということをきながら、成したものは「権力に応じて分」となっている。「心の底から人民に

奉仕する」という名で、理想を抱く人々を欺き、その後この人々を^おし、全に支した。やがて、この人々は「心の底から党に奉仕する」という態となり、人民のためには情せず、従な具となってしまった。

二 「中国」とう 政党

党の利のには、一切の原則をみないという。教ともいべき中共の営方式が、中国会を捻じ曲げてしまい、人会の中で本当ののを作り出したのである。このは、いかなる国家、政党、団体もなる。その原則は原則であり、その微と齒の、何の意もなくをう。善な人々は、中共ができないとうが、それは人共の德基を基にして、中共を推しろうとするからである。悪なが、一つの国家を代していることなど、全くの想定外であるからである。党は「中国」をもって、世の民族にり出たのである。「中国」は、「中共の」の図である。

中国のかたわな本主は、「中国の会主」であり、「失業」は中国の「待業」であり、「」は中国の「下崗(リストラ)」であり、「困」は中国の「会主の初期段」である。、信仰のといった「人権」は、中国の「存権」となるといった具合である。

三 国家の化、中民族は前の徳危機にしている

90年代初め中国ではやり始めた——「俺はならずだ。も恐くない」。これこそ中共が、数十年にってな政治をった果であり——国家化とうべきである。中国の構な栄に伴い、会徳が全に墮したのである。

中国人民代大会催期に「信問」がらかに唱えられ、中国の大学入でも「信」というの作文が求され、「信喪失」と「徳問」が、中国会のしているにえない巨大な危機であるとされた。汚敗、偽札横、欺横、卑劣化した人心、日増しに悪化する世情、人と人の信の欠如となっている。

が改善されしたという人々にとって、の安定こそ、最も心を持っていることではないのだろうか。会が安定する最もなは何であろうか。つまり徳ではなかろうか。徳の欠した会に安全保はないのである。

今日にって、中共は伝宗教を弾圧し、伝な価値を壊し、手段をばずにを掠め取り、手段をばず人民を欺き、上の梁が曲がったため下の梁が歪み、会全体を急に化している。に政治をめる中共にとっては、本からして、会の化が、存境に不可欠であり、あらゆる手段をじて、人民を悪事に引きずりもうとし、中国人民をそれぞれの大小なるに仕上げるのである。中共のとしての本性は、中民族の徳の基をさせるのである。

び

「江山は改め易く、本性はしし」。歴史にられるり、中共は毎回め付けと弛をりして来ているが、めるときにも、そのコントロールを放棄することを意味はしない。前世60年代初めの大の後、「三一包」あるの化するものを、業回復のローガンとしたが、それは業従事の「奴地位」を、改めようとする意図があったではない。80年代の「化」と「改」も、1989年の人民殺に、いささかの影を与えるものではなかった。今後とも、中共が何かなことを変えたとしても、としての本性を改めることなどあり得ない。

事はぎ去り況が変わり、この党が昔の党とはい、の前にある偽りの姿にすることなく、共党が改善された、あるいは改善されつつある、あるいは改善しようとしている、とえる人々の去の憶がれてしまえば、中共団は存をけ、人会に害を与えける機会を与えることになる。

共党のっている全ての努力は、人に忘れさせることである。しかし、人民がした全ての努力は、しっかりと憶する、ということなのである。

共党の歴史は、人民の憶を壊すことの歴史であり、在の世代は前世代のをらされていない歴史であり、億万の人民が共党の去に抱いた怨嗟、及び在の共党に対する希望という、巨大なの中での受の歴史である。

共党というが人の世に下りてきて、共党が一揆との命で政権を奪った後、まぐさい暴政で、「党という憑き」による専制会をって来た。これはに反し、天にき、人性に反し、宇宙にも反する、いわゆる「争」である。人のと善意を壊し、伝文明と徳念を壊させ、い殺と強制で、全国民をわせる共教で、国家を一したのである。共党の歴史の中で、恐怖がにした乱の時期も、亡にり、へち延びる時期もあった。しかし、共党は、危機にする度に、の三口でれ、人民を愚弄しけては、次なる乱へと向かうのである。

人々が共党のとしての本性をし、その欺きに乗らないことこそ、中共とその本性が、をえる時である。中国5千年の歴史に比べれば、中共による50数年の治は、僅かな時である。中共の存在しない時代、中国は人史上に残るかしい文明を創した。中国の内憂外患という機に乗じて居座った中共が、中民族に巨大な劫を与えた。この劫は、中国人に数千万人の命と、数の家庭の壊という代価を支払わせただけでなく、民族存にかかせない態をもにし、更に大なことは、民族の徳と優れた文化伝をことごとく壊したのである。

中国の未来はどうなるであろうか。中国はどこへ向かうのだろうか。こういったな問は、

で に すことも しい。ただし、一つだけはっきりと分ることは、中 民族の 徳を建
て し、人と 、人と人の 係を和やかにする共 の信仰と文化がなければ、中 民族に か
しい未来はあり得ない。

中共の数十年に及ぶ弾圧と、^カによって、その思惟方式、善悪の基 まで、中国人 命の 層
に入り んでしまい、人々は^{ある}度その歪んだ を受け入れ、 めてしまい、その 偽の一
分となり、中共にその存在意 形態の基 を提供しているのである。

命の中から、中共に注ぎ まれた一切の を取り き、全ての悪を揃えている中共の本
を明らかにし、人性と を取り戻すことが、共 党のない 会を取り戻す必 の であり、そ
の 一歩なのである。

この は平坦で やかであるかどうかは、中国人一人一人の内心の変化にかかっている。中共
は、一切の国家 と暴力機 を 上持っているが、各人が の力を信じ、 徳を んじる
ならば、中共という は を く場所がなくなり、一切の は、正 の手に ぐにでも戻る
かもしれない。それは、中国の再 が ころの時でもある。

中国共 党がなければ、新たな中国が まれる。

中国共 党がなければ、中国には希望が まれる。

中国共 党がなければ、正 善 な中国人民が再び歴史に きをもたらす。

権所有 大 元 欽 変更不可